令和6年度　学校評価　小学校結果

令和7年3月末　学校教育課まとめ

		1	2	3							6	4	5	
				学校自己評価結果							学校関係者評価			
No.	学校名	中期的目標	今年度重点目標	項目数	No.	分野	重点関係	評価項目・取組内容	達成状況	取組状況改善方策	評価項目	実施方法	総合	表示以外の評価分野
1	精道小学校	自ら学び　自ら歩む　心豊かな子の育成	（1）「安心・安全」な学校づくりの推進 （2）共感的な子ども理解にもとづく生徒指導の充実 （3）知識の理解の質を高め，資質・能力を育む主体的・対話的な深い学びの創造 （4）現代的な諸課題にも対応する教育課程の編成と改善 （5）たくましい心身を育む体力づくりと健康教育の充実 （6）「特別な教科道徳」を柱とした、命と人権を大切にする心の教育の充実 （7）自主的自発的な児童活動の充実 （8）保護者・地域と連携した特色ある開かれた学校経営の推進	2	1	授業研究	2	・子どもひとりひとりが生き生きと学び、学び合いを通して考えを深める授業の創造を目指す。そのために、児童の学習意欲を高めること、肯定的な教室の文化を作ることに留意する。	B	・今年度は、外部講師を招聘しての授業研究会を行うことができた。また、学年団で授業研究を行い、一人一授業の実践を行うことができた。 ・研究テーマである主体的対話的で深い学びを追求するため、各学年での「学びあい」の実践交流を継続して行ってきた。 ・次年度も、主体的対話的で深い学びの研究を軸に、本校の課題にあった講師に指導を依頼する。	・「学び合い」は、まず聴き合うことであるという理念のもと、さらに探求していく必要がある。 ・主体的対話的で深い学びを追求していくため、研修で相互交流を図ってきたが、「深い学び」に課題があるので、さらなる研修を進めていく。	今年度、教育改革推進委員会で、保護者評価と教職員評価の連動が見られなかったため、来年度それぞれの評価が対応する形で実施する予定である。	1月31日実施の学校運営協議会では、本校の防災学習や授業研究の取り組みなどを高く評価していただいた。また児童の見守りについて、地域保護者との連携を高く評価いただいた。保護者アンケートにおいては、児童の学習における分野においての課題が見られた。その他、生徒指導や体力健康、安心安全な学校づくりなどの項目においては、高く評価いただいた。	人権教育の推進
2	宮川小学校	笑顔を育てる～「共に生き　自ら学び　創造する子ども」の育成～	1　地域力を活用し、学校情報発信(学校HP・学校だより等)による信頼関係構築 2　基礎的・基本的な知識技能を習得し、タブレット端末等を学習ツールとして活用する。学力向上の推進(関わり合い、学び合う子どもの育成) 3　いのちと人権を大切にする心の教育の充実	2	1	学校運営	2	地域に信頼される学校づくり	B	学校HPや学校だよりにおいて、学校の様子を保護者や地域の方々に公開することができた。校外学習や宿泊行事など、普段と違う様子も見ていただけるよう工夫した。登下校の見守りやブックマーム等、ふだんから多くの方々にお世話になっているということを全校朝会などで子どもたちに紹介する取り組みを行った。宮小ふれあい祭りでの交流は、市内に誇れる宮川小学校の良き伝統の一つであると自負している。今年度は交流給食も実施できた。	地域の方が見守りに立っていたり、学校と連携してふれあい祭りなどを行っていたりすることを知らない保護者も多い。今後も、学校から保護者への啓発を続けていく。ふれあい祭りの実施に向け地域としても協力するというというご意見もいただいた。	・保護者アンケートの結果を集約・分析し、次年度の実践に生かそうとしている。 ・ミマモルメアンケートによる回答と紙媒体での回答と保護者が都合の良い方を選べるようにしている。回答率は昨年に引き続き70%を超えており、来年度も続けていく。	・学校行事を通して、子どもたちの育成に尽力している。 ・子ども一人一人が色々な場面で生き生きと活動している。 ・保護者ボランティアによる美化活動がすごく良い。 ・ふれあい祭りの行事はすごく楽しい。	学習指導
3	山手小学校	学校教育目標「自ら考え　判断し　創造する子の育成」を実現するために、「考え　判断　創造」のどの行動においても、「相手のことを考える」を基準に置いた行動ができる子どもの育成に努める。	1　相手意識をもった「きく(聴く・訊く)」ことができる子どもの育成 2　互いに認め合い、共に生きる子どもの育成 3　自ら考え、正しく判断し、行動できる子どもの育成	2	1	学力の向上	1	・子どもの「きく」力をつける。 ・課題解決に向けた効果的な学習活動となる手立てを考える。	B	・「きく」力について、各学年の実態を把握し、そこから見えてきた課題について、どのような手立てを講じて、指導するのかについて、毎月の授業推進委員会で話し合いを進めてきた。 また、一人ひとりの公開授業における指導案に、「きく」力をつけるための指導内容を記載した。 ・「課題解決に向けた効果的な学習」とは、問題解決学習をどのように仕組むかである。そのために、互いに「ききあう」(聴く、訊く)を中心にした授業改善を継続的に行った。	・「きく力」の段階、「話す力・きく力の10か条」「話す力・きく力をつけるための指導方法」などを随時更新し、学校全体での共通理解を図る。	・アンケートの実施方法等については、特に意見なし。	・いじめ問題や不登校問題への取り組みについて、今後も充実させていくことが大切。 ・先生たちがしっかり子どもたち状況に目を向けることで、子どもたちの様子は変わってくるので、丁寧にかかわっていくことを継続してほしい。	心の教育の充実

4	岩園小学校	【学校教育目標】　学び合い　支え合い　関わり合い　～対話あふれる場の創造～	1子どもが主体的に取り組む授業づくり 2確かな人権意識を・感覚を身に付け、共生社会の構築に向けて、主体的かつ意欲的に取り組む子の育成 3自己肯定感を高め、自分の夢や目標など将来について考えられる子の育成 4自分で正しく判断し、行動できる子の育成	2	1	子どもたちが主体的に取り組む授業づくり	1	1）個別最適な学びの推進 2）探究的な学びの推進 3）協働的な学びの推進	B	1)オープンクラスウィークをおこない、教師が互いに授業を見合ったり、日頃から授業について話したりする機会を設けている。 2）一斉型の授業だけではなく、子ども自ら課題を選択したり、必要に応じて周りの友達と協力して学んだりするなど、子どもに委ねる授業づくりに取り組んだ。それらを実践するためのミニ研修会や実践交流をを月1回程度実施した。	・ミニ研修会やお互いの授業を見合うことにより教師が学び合って授業力を向上させようと取り組んでいる。委員会主催の研修や校外研修にも積極的に参加し、自己研鑽を積むことができた。 ・子どもに委ねる授業づくりをめざして各学年に委ねる形で個別最適な学びの実践を行った。年度末に交流し、来年度に向けて推進していく方向性を共通理解できた。	保護者・児童からのアンケートを集計・分析し、次年度の課題を示して教職員・保護者に周知している。教職員アンケートで部会ごとに分析および新たな方向性を示し、業務改善や校務分掌に関わることなどについても全体の場で共通理解している。	インクルーシブ教育の推進を保護者への啓発を含めて積極的におこなっている。一斉型の指導だけではなく、子ども達が自ら課題を見つけ学ぶ「探究型の学び」を意識して取り組もうとしている。保護者との対話集会や有識者から「これからの学び」の教育講演会を開くなど啓発活動にも尽力している。学校でおこなっている教育実践も随時HPで発信している。	互いに認め合い、尊重し、関わり合う良さが感じられる学級づくり
5	朝日ケ丘小学校	「共に学び　支え合う子ども」の育成	1 教育の基礎基本を大切にして、安心し、落ち着いて過ごせる学校にする。 2 学び合い、支え合いを大切にできる学校をつくる。 3 一人ひとりをかけがえのない存在として認め、その良さや可能性を伸ばし、自尊感情を高める。 4 体験活動や読書を大切にし、心豊かな子どもを育てる。	2	1	学習指導	2	・教師は児童が共に学び合い支え合うために「聴き合いの輪」を意識した授業を行っているか ・学び合う環境づくりを一層充実させるために、学習規律の保持と、信頼関係の構築された学級経営が行われているか。	B	・年間3回の全校授業研究会を実施。指導助言講師の指導の下、授業研究会を行った。 ・全員が一授業公開をし、授業力向上に努めた。 ・効果的な学習環境を目指し、教職員が共通理解し、学習規律の確立につとめた。引き続きノーチャイムを実施し、児童が時計を見て行動し、5分前行動が定着している。	・全校保護者会を年度の当初に開催し、校長から今年度の学校の方針と取り組みの状況を説明している。保護者にも一定の理解を得て教育活動をおこなうことができている。	・昨年12月に保護者・児童・教職員に15項目のアンケートを実施した。 ・児童・保護者の評価の違いについてを報告	・学校の取り組みについては、アンケートの回収率が約95%で保護者から理解されている。さらに丁寧な取り組みを進めてほしい。 ・学習活動をはじめ、学校が落ち着いている。児童、保護者、先生の関係がうまくいっている。	体験活動の充実
6	潮見小学校	学び合い、支え合う　心豊かな子どもの育成	1　思いやりのあるやさしい子の育成～あいさつ・言葉・助け合い～（多文化共生教育の充実） 2　思いや考えを聴き合い、学び合う子どもの育成～一人ひとりの学びに寄り添って～ 3　家庭、地域との連携を深め安全・安心な学校運営の実施	2	1	教育課程	1・2	①全教員による授業公開及び2回の全校授業研究会の開催 ②縦割り（異年齢集団）活動の研究 ③外国にルーツのある子どもたちへの日常的な教育活動の充実		①聴き合える子どもを育てるために、子どもたちの関係をつなぐことを切り口に授業研究を行った。幼稚園教諭とも事前事後研究会での協議を深めることで、研究テーマに沿った取り組みを行うことができた。 ②縦割り班を編成し、児童会役員の公約の取り組み、作品展の全校作品の制作、委員会のイベントなどの活動をすることができた。また、潮見幼稚園との交流も多学年で実施することができた。 ③日本語指導推進教員を中心に全教職員で日本語指導の充実を図るための体制づくりやこくさいルームの環境整備等に取り組むことができた。	多くの専門家（大学教授等）や地域の方が来校され、学校の様子を参観し、意見を聞く機会を設けることができた。今後も、積極的に学校や子どもの様子を見てもらい、対話することで、学校運営に生かしていくことが大切である。縦割り活動については、イベントだけではなく、日常的にかかわれる活動への研究を深めていく必要がある。外国にルーツのある子どもたちへの支援は、研究したことを校内で共有することで、一人ひとりにあった学びの充実につなげていく必要がある。	教職員による学校評価、保護者による学校評価に加え、児童の振り返り、各行事ごとに実施した保護者からのアンケート調査と学校関係者評価委員会等で意見を聞いて総合評価をした。	多くの方に、来校してもらい、子どもたちの様子について幅広く意見を聞き、学校・保護者・地域と連携しながら子どもにとってより良い教育活動を進めていく。	防災・安全教育

7	打出浜小学校	〇学校教育活動全体を通じて、命を尊び人権を大切にする心や規範意識を育てる。 〇すべての児童が自らを高め、支えあうことができる学級（学年）づくりに取り組む。	1 児童の実態を見据え、授業・学習における主体的な学びを育む。 2 校内生活の決まりの徹底を図り、規律ある集団生活と安全な行動のとれる子どもを育てる。	2	1	教育課程	1	・ICT機器を用いて、子どもたちが互いに教えあう場面を増やす。 ・子どもたちの学ぶ意欲を高める授業づくりを工夫する。 ・授業改善により生じた時間を、子どもたちに向き合う時間にする。	B	・ICT機器を活用して、児童が「やりたい」と意欲を持って考え、調べたことをグループや全体で共有しながら学びを深める。 ・児童の実態を捉え、授業内容・発問を工夫し、ペア・グループ学習で児童同士が関わりあいながら学習を進める。 ・休み時間、放課後等を利用して、一緒に遊ぶなど児童と関わる時間を増やし、信頼関係を深める。	・タブレットを使いこなしたり、キャリア教育、異学年との交流、委ねる授業など、子供たちに寄り添う教育の姿が見られる。 ・子供たちは、運動会・音楽会・図工展等、学校での行事や生活を楽しんで過ごしている。学校は、体験活動、豊かな心の育成に取り組んでいる。	保護者を対象としたアンケートを年１回、大きな行事毎に保護者アンケートを実施している。また、学校運営協議会員にも年１回アンケートを実施しており、資料収集は十分行われている。	・児童がのびのびとしている。また、委ねる授業などの児童の主体的な学びを活かそうとする取り組みも、教職員が努力している。 ・学校は、保護者と協力しながら教科の基礎基本的な学習を、平和学習などの行事を通して命の大切さのわかる児童を育てている。	生徒指導
8	浜風小学校	全教育課程を通して「自ら学び　共に生き創造する子」の育成に努める。	1　学び合う子の育成 2　お互いに認め合い、共に生きようとする子の育成 3　主体的に創り出し、活動できる子の育成	2	1	学力の向上	1	・授業やスキルタイムの中で、基礎学力の定着・向上を図る。また、タブレット有効活用の研鑽を積んでいく。 ・「相手意識」を持った言語活動を中心に授業を組み立て、「学び合う」学習環境を整える中で、主体的・対話的で深い学びに取り組んでいく。 ・より本に親しむ子を増やすべく、読書活動の推進をおこなう。	B	・保護者アンケートだけでなく教職員アンケートにおいても、基礎学力の定着については、昨年度から着実にいい評価が増えている。すべての学習の礎になので、来年度も引き続き基礎学力の定着に力を入れていく。タブレットの活用については、本年度の授業研究推進の重点目標の一つとして取り組んだ。活用率は市内の他の学校と比べても高い。 ・学び合うことを意識した授業改善を進め、土壌を作ることで、主体的に学ぼうとする児童が増えてきた。 ・図書室の本の年間一人当たりの平均貸出し冊数は、ここ数年確実に増えている。学校における状況はよくなっているが、家庭において本を手に取る子どもは決して多いとは言えないことは課題である。	・子どもをしっかりと把握した上で、わかりやすい授業をおこなってほしい。 ・読書は子ども時代に習慣化させておきたいので、小学校での取り組みが重要である。読み聞かせ活動などの取り組みを行い、読書好きの子供を育ててほしい。 ・SNSについては、学校の指導だけでなく、家庭での教育も大切である。来年度も保護者向けの情報モラル研修を実施していただきたい。	・保護者アンケート・教職員アンケートの結果及び分析をもとに、学校関係者にご意見をいただき、評価を行っている。	・高い評価が維持されている。特に「学校は、子どもにとって楽しみなところである」の高評価が今後も維持できるよう、取り組んでいただきたい。ただ、回答率が下がっていることが気になる。アンケート集約の方法など回収率を高める手立てを考えなければいけない。	心の教育の充実